

## ▲ ▲ ▲ 谷川岳 馬蹄形縦走 ▲ ▲ ▲

西山 哲明

◎期日：2020年9月16日(木)～17(金)

◎メンバー:単独

**初日**:行動9時間31分 休憩1時間20分 合計10時間51分

土合白毛門登山口 4:30→朝日岳 10:30→清水峠 12:30→蓬ヒュッテ 14:45

**二日目**:行動7時間48分 休憩1時間31分 合計9時間19分

蓬ヒュッテ 7:00→茂倉岳 10:10→オキの耳 12:00→西黒尾根登山口 15:50→  
土合白毛門登山口 16:23

雨がポツリポツリと降っている。樹林帯の中ではたいして気にならないが、抜けたら雨具を着ないといけないかもしれない。白毛門へと続く真っ暗な登山道を登ることだけに没頭しようと思うが、この天候で今日は来るべきだったのか、面倒なことにならないかとネガティブ感情がふつふつと湧き上がってくる。この気持ちをなんとか押さえつけようとイヤホンをつけた。坂本九さんの「心の瞳」が耳を伝って身体の中に流れて込むと不安な心が流されていくのを感じた、名曲だよなあと、簡単に気持ちが切り替わる単純な自分の心に笑いがこみ上げる。さらにルート途中で赤澤さんと合流できることも楽しみだ。どうしても雨が酷ければ赤澤さんと合流してから降りて、一緒に温泉とお酒でも飲みに行けばいいやと思いき直ることができた。

今回のルートは、山の友人から教わった。一ノ倉はクライミングで何度か訪れたが、そのたびにあの稜線をぐるっと回れないかなあ、などど話したら、谷川岳馬蹄形って有名なルートがありますよと、彼女も狙っていたらしく時計回りか反時計回りが良いか、野営地点をどこにするのか、など会うたびに話の花を咲かせていたからだ。一緒に行ければよかったが、さほど苦勞のないルートだし日程も合わないなのでお互い単独でいくこととなった次第である。

白毛門に抜けるとあたりは真っ白なミルク色の霧に覆われていたが、水をたっぷりと含んだ霧は深呼吸するたびに喉を潤してくれる。これは気持ちがいいと周りに誰もいないことをいいことに大きな声で歌を歌うこととした。民謡から歌謡曲、アニメソングまで見境なしである、気持ちよく歌いながら笠ヶ岳に上り詰めると、ドン！と笠ヶ岳の頂上に赤澤さんが鎮座されており、きっとわたくしのダミ歌を聞かれたなあと考えたが、「ちーっす！」と照れ隠しに元気に挨拶、赤澤さんいつもの笑顔で「おう！」、ここまでの疲れが吹っ飛び、さらに美味しい梨までご馳走になり元気百倍になった。



(笠ヶ岳頂上で赤澤さんと)

赤澤さんと別れてからは、また大声で歌いながら稜線をズンズンと突き進む。やはり整備されている登山道は歩きやすくていいなあ、としみじみ思いながら気持ちよい稜線歩きが続いた。途中朝日岳で2パーティ出会う。こんな天気にも物好きな人達もいるものだ。朝日岳を抜けてから木道を歩いていると少しずつ晴れ間が出てきた。先ほどまでの濃い霧が風に流され山稜が湧き上がるように現れた。小さな

った雲が風に煽られて小舟のようにゆっくりと山をせり上がって行く様を見ていると、急に涙がポロポロと出てきてしまい、立ち止まり思わず感傷にふけてしまった。見晴らしが良くなると笹野原のなかに登山道が1本の線となって見えてくる、ほどなく遠くに赤い三角屋根を見て捉えることができ清水峠があと少しだとわかる。赤い屋根が避難小屋ではなく JR の建物だと近づいてから分かったが、そばには可愛い避難小屋もあった、5分ほどの場所に水場があるので蓬ヒュッテでもしも水が涸れてるといけないと思い念のため補給する。



(清水峠が見えてきた)

七つ小屋山を越えて相変わらずの笹野原をさっそうと抜けていくと、また霧が立ちこめてきた、ここまで来ればいつかは蓬ヒュッテに着くので問題はない、出来ることならこのままずっと歩いていたいぐらいだったが、頭の中でこの先の茂倉山まではさすがに明るいうちの到着は無理なので諦めることにした。そんなことを考えていると蓬ヒュッテは霧の中から忽然と現れた。とても小さな山小屋でなかなか良さそう、中に入り声をかけたが誰もいないのでトイレ代の500円をボックスに入れ水場に急いだ、水場は10分ほど降るとすぐに見つかった。岩の間から止めどもなくたっぷりの清水が湧きいでてくる。頭から水を被り服を脱ぎ身体を拭くと、とても気持ちがいい、飲んでみると甘露で美味しいこんな美味しい水は久しぶりに飲んだ。

テン場は誰もいないので1番良さそうな場所にきめソーセージを焼いてビールを喉に流し込む、食事はスープパスタを作り腹に収めると体が温まってきたが、次第に風が強まったので、後はテントに逃げ込むことにした。携帯を見ると普通に繋がる。最近の山は携帯が繋がるようになってるんだなぁと感心して、暇なのでここを教えてくれた友人や山仲間と連絡をとってライン越しの宴会をした。

翌朝目覚めると目の前の小屋さえ見えないほど霧が濃い、もう東雲の時分だったが雲で太陽がかくれている、ただこの感じは晴れる、霧で重くなったテントを無理矢理しまい込み準備をしていると、雲の中から日輪が現れて太陽が顔を出した、昨日友人からのラインでは下界は暑いとのことだったので、こちら紫外線対策をバッチリしてザックを背負う。太陽が出てきて雲海が見事に現れてきた、茂倉山につづく稜線には霧がかぶり霧の滝ができています。足元にはトリカブトの花が夏のお披露目のつもりか見事な紫色の花を咲かしていた、そうかと思えば山あいのナナカマドが秋の色づきをはじめている、山は夏から秋に衣替えをはじめているようだ。



(茂倉岳に向かう)

茂倉岳の途中にちょうど良い岩が有り、見れば見るほど登りたくなってしまいザックを下ろしてボルダリングに興じる。誰もいないかと思っただが、上から降りてくる登山客に見つかってしまった、少し恥ずかしかった。茂倉岳に近づくと別尾根の先に立派な避難小屋が見てとれた。水場もあるらしいのでそのうち泊まってみたい。一ノ倉を通り過ぎてくると、鎖場が徐々に増えてきた。いつの間にか霧が濃くなっており谷底にあるアルパインルートが残念ながらみえない、オキの耳を通過してトマの耳にさしかかったら、そんな自分の気持ちを察してくれたのか山は霧のカーテンを少しだけ開いてくれた、指でルートを差し追うと一昨年ソロで行った一ノ倉南陵ルートのような。確かに先人の岳人達はこれを見たら登りたくなって開拓をしたのだろう、彼らの気持ちが伝わってきた。



(数秒間だけ、一ノ倉・南陵ルートが顔を覗かせた)

写真を数枚撮り終えたとたん、霧は“もういいだろう”と言わんばかりに霧のカーテンを閉めてしまったので、先を急ぐことにした。ほどなく霧の中に肩の小屋をみつけてそのまま西黒尾根に入り込む。岩



場が多く滑りやすいので注意しながら降りていくと、巖剛新道との分岐にでくわした。樹林帯にはいると岩場はなくなりホッとして少し駆け足で降りると車やロープウェイの音が徐々に大きくなってきた。車道まではあと少しだ。

#### 【総論】

久しぶりの登山でのロングトレイルである。長いルートではあったが稜線に上がってからはさほどの苦労はなかった。おそらく整備したのだろう、笹原もさほどかぶった感じではない。さらに水場が多いのがとてもありがたく助かった。夏は遮り場所もないのでかなりつらいかもしれないと感じた。景色は馬蹄形というだけあり、ルート左手にはこれから行く山並みや今までたどった山並みが常に見えるのがおもしろかった。

#### 【温泉情報】

みなかみにある風和の湯に行った、こじんまりとした良い温泉だった。

<http://www.enjoy-minakami.jp/spa.php?itemid=583>

#### 牧温泉 風和の湯

〒379-1303 群馬県利根郡みなかみ町上牧 1996-7 TEL.0278-72-1526 営業時間：12:00~20:00

定休日：水曜 大人：600円

(了)